



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り
No. 686 令和7年1月8日
青梅市立河辺小学校

「自分の考えを言葉で適切に表現できる児童の育成」～校内研究の取り組み～

あけましておめでとうございます。冬休みはいかがお過ごしでしたでしょうか。子供たちにとっては、年末年始を含む冬休みがリフレッシュやエネルギーを蓄える良い機会となったことと思います。

今日から、1年のスタートでもあり、年度の締めくくりでもある3学期のスタートです。子供、保護者・地域の皆様、教職員一人一人にとって「充実の時」となることを心より願っております。

河辺小学校では、体験的な学習を通して心身の成長を促すことを重視し、多くの行事や教育活動を実施していますが、「学校」にとって最も大切なことは、日々の授業を充実させていくことです。本校では毎年、学校としての「研究テーマ」を決め、「よりよい授業」を目指して共通実践を続けています。今年度の河辺小学校の研究テーマは「自分の考えを言葉で適切に表現できる児童の育成」です。

河辺小学校では、平成28・29年度青梅市研究指定校として設定した「河辺小授業スタイル」という問題解決型の授業スタイルを、継続的に共通理解・実践することで、「教え込む授業」ではなく、「児童が自ら考え、学ぶ授業」「友達と交流しながら考えを広げ、深める授業」を目指しています。実践を積み重ねられていること、教員や子供たちの頑張り、河辺ドリルやステップアップクラスなどの取り組み、保護者の皆様のご理解とご協力により、学力の定着に向上がみられています。

しかし、各調査のデータや児童の学習の様子を分析することで、河辺小の子供達には全体として国語、特に「自分の考えをまとめる」「考えを発表する」「文章を書く」ことに苦手意識を持っている子供が多いことが分かりました。

「物事に対して自分の考えを持つ」「自分の言葉でまとめる」「場や状況にあった表現で伝える」ことは、現在進められている「主体的・対話的で深い学び」の基盤となるものであると同時に、今後の社会を生きていく上で非常に大切な力となります。

そこで、今年度は国語科の授業に焦点を当て、「適切に表現する」や「他者に伝える文章を書く」活動を取り入れた授業研究を行っています。

これまで低・中・高学年ごとのブロック研究授業を2回実施しました（全6回の研究授業）。各授業には、現在も優れた実践を行われている現職の先生方をお招きしてご指導をいただき、さらなる改善に努めています。今後は、全校研究授業として1月に6年生、2月に4年生での研究授業を実施予定です。

「授業」には「これで完璧」というものではなく、また時代の変化にも対応していく必要があります。まさに「不断の授業改善」が求められます。私たち教師も、よりよい授業・教育活動を目指して、子供たちと共に成長していけるよう努めてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。